

# 株主通信

第160期

[2022年4月1日～2023年3月31日]

## CONTENTS

|                  |                |
|------------------|----------------|
| 株主の皆様へ……………01    | TOPICS ……………09 |
| 業績ハイライト……………04   | 連結財務諸表…11      |
| 特集1 中期経営計画…05    | 役員紹介……………12    |
| 特集2 ヘルスケア……………07 | 株式情報……………13    |
| 特集3 研究開発……………08  | 会社概要……………14    |



世界のパートナーと共に  
社会課題を解決する  
イノベティブカンパニーへ

技術開発力と社会実装力の両輪強化により持続的成長を果たす

## 株主の皆様へ

2023年からスタートした新中期経営計画では、「世界のパートナーと共に社会課題を解決するイノベティブカンパニー」として技術開発力と社会実装力の両輪強化により、お客様へトータルソリューションを提供し、持続的成長と企業価値向上に挑戦します。

2023年6月  
代表取締役 社長 **山本 靖則**



### 社 是

科学技術で  
社会に貢献する

### 経営理念

「人と地球の健康」への  
願いを実現する

### 第160期 連結業績ハイライト

売上高  
**4,822**億円  
前年度比 +12.6%

営業利益  
**682**億円  
前年度比 +6.9%

経常利益  
**709**億円  
前年度比 +8.1%

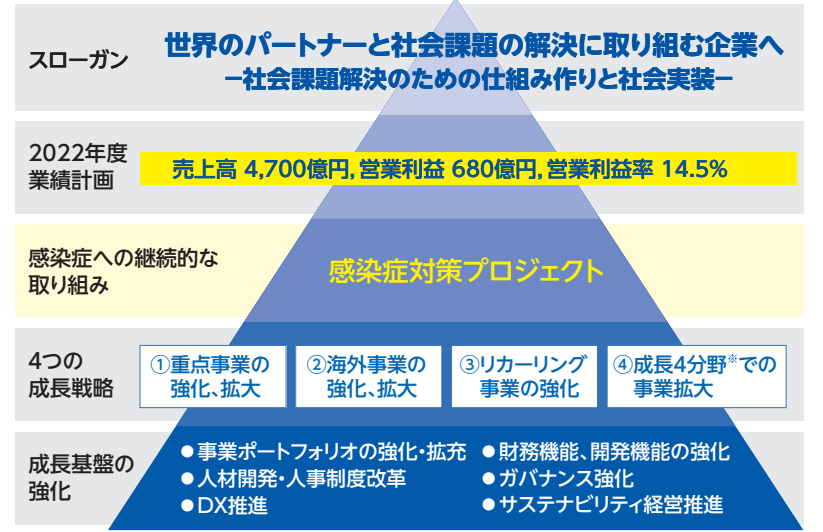
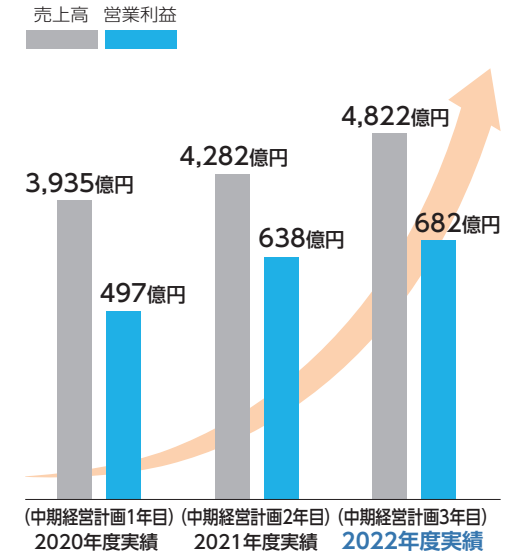
親会社株主に帰属する当期純利益  
**520**億円  
前年度比 +10.1%

### 第160期 連結業績のポイント

- 売上高・営業利益 3期連続過去最高**
  - 売上高：主力の計測事業が牽引し、3期連続で過去最高を更新。
  - 営業利益：重点機種を中心に計測事業が貢献し、3期連続で過去最高を更新。
- 計測・医用・産業 過去最高売上高更新**
  - 計測：ヘルスケアとグリーン分野で、重点機種に加え、環境、試験機などが貢献。
  - 医用：北米でのX線TVの好調などを背景に、X線装置3機種が貢献。
  - 産業：後半は厳しい市況になったものの、TMPが年間で過去最高を更新。
  - 航空：航空旅客数の回復により民間航空機向け需要が回復。
- 計測重点機種、TMP 過去最高の売上高**
  - 重点機種：ヘルスケア分野を中心に増加、特に海外で好調に推移（前年度比+13%）。
  - TMP：半導体と建材ガラス市場の好調を背景に、初の300億円超え（前年度比+12%）。
- 第4四半期(1-3月) 前年同期比 大幅増収・増益**
  - 売上高：部品部材不足緩和、中国回復などにより、計測が前年同期比+20%、医用、産業、航空事業も好調で、全体で前年同期比+17%。特に計測の重点機種は前年同期比+25%。
  - 営業利益：増収に伴い、四半期として初めて営業利益200億円を突破。計測事業の営業利益率が20%を突破。

(注) 計測重点機種(LC：液体クロマトグラフ、MS：質量分析システム、GC：ガスクロマトグラフ)、TMP：ターボ分子ポンプ

### 前中期経営計画 2020年4月～2023年3月



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第160期の業績および新中期経営計画についてご報告いたします。

### 当連結会計年度の業績

当連結会計年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の両立が進み、サプライチェーンの混乱が徐々に収束の兆しを見せたものの、インフレ抑制に向けた各国の金融引き締めによる景気下振れリスクの拡大、ロシア・ウクライナ情勢の長期化等、不透明な状況が継続しました。

このような経営環境のもと、当社は、「世界のパート

ナーと社会課題の解決に取り組む企業」を目指す中期経営計画に取り組みました。感染症対策プロジェクトでは、新型コロナウイルス検出試薬キットや全自動PCR検査装置を迅速に提供しました。加えて、企業・大学・医療機関等と協力して感染症対策の仕組み作りにも注力する等、安心・安全な社会の実現に向けて継続的に取り組みを進めました。

4つの成長戦略として、重点事業、海外事業、リカーリング事業、成長4分野の強化・拡大を図りました。重点事業では液体クロマトグラフ、質量分析システムが医薬・食品安全等のヘルスケア分野向けを中心に増加しました。海外事業では、パートナーと共に課題解決を推進した結果、主要地域全てで増収となり、海外売上高比率は

56.2%(前年度比3.2pt増)となりました。リカーリング事業では、保守・メンテナンス・サービス契約の拡大に加え、2022年10月より日水製薬株式会社(2023年4月から島津ダイアグノスティクスに商号変更)を連結子会社化したことで、リカーリング比率が向上しました。成長4分野では、ヘルスケア、環境・エネルギー、マテリアル、インフラの各分野で事業拡大を推進しました。

新たな技術とイノベーションの創出に向けて、2023年1月「Shimadzu Tokyo Innovation Plaza」を開所し、アプリケーション開発機能強化を図りました。羽田空港から近い好立地を活かし、国内外の研究機関や顧客と共同研究やオープンイノベーションを通じて、新しい価値創出と社会課題の解決を目指すべく、研究開発体制を強化しました。

以上の結果、当連結会計年度の業績につきましては、部品・部材不足や価格高騰、中国の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、為替の円安進行による押し上げ効果もあり、売上高は4,822億4千万円(前年度比12.6%増)となり、営業利益は682億1千9百万円(同6.9%増)、経常利益は708億8千2百万円(同8.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は520億4千8百万円(同10.1%増)となり、3期連続過去最高の業績を達成しました。

なお、2022年9月、当社は、当社の子会社である島津メディカルシステムズ株式会社において、取引先である医療機関に設置したX線撮影装置の保守点検業務に関する不適切行為が行われていたことが判明したことを公表し、2023年2月に外部調査委員会からの原因分析および再発防止策等の提言に基づき、速やかに具体的な再発防止策を策定、実行することを公表いたしました。

当社は、外部調査委員会からの提言を真摯に受け止め、リスクマネジメント推進、内部統制、モニタリングの強化等を図り、組織風土の変革を進め、グループ全体で再発防止に取り組めます。

当社は、本件を深く反省し、今後このような事態を二度と起こさないよう「コンプライアンスは全てに優先する」を基本とし、グループガバナンスを更に強化して、信頼の回復に努めてまいります。

### 新中期経営計画スタート

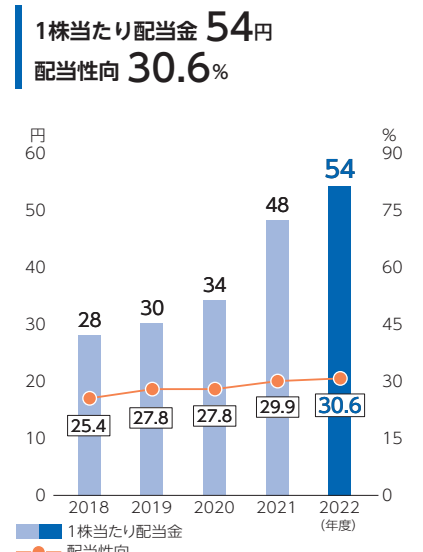
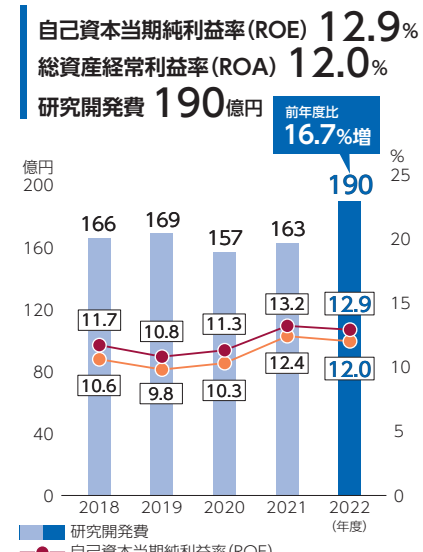
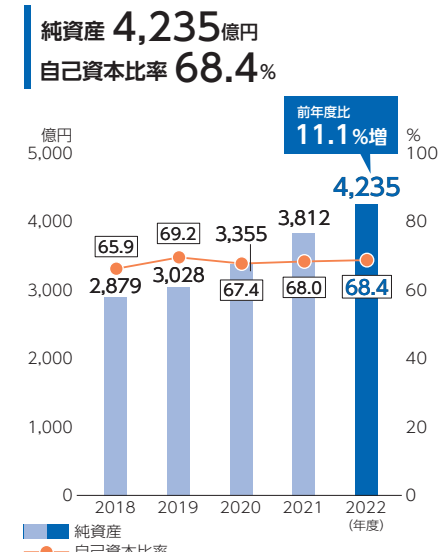
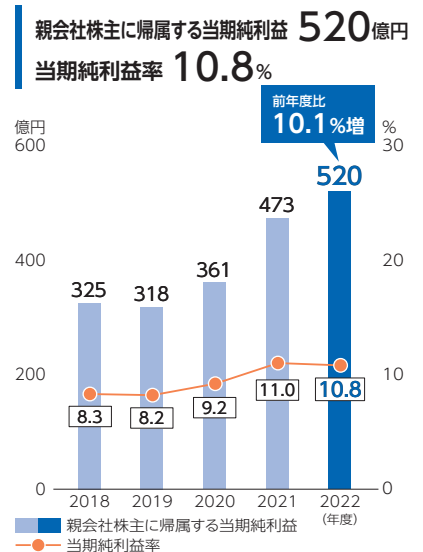
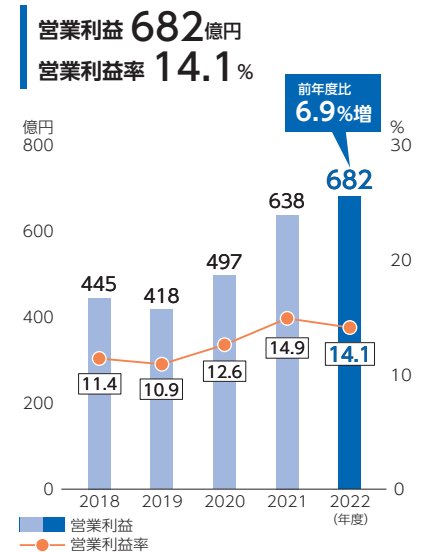
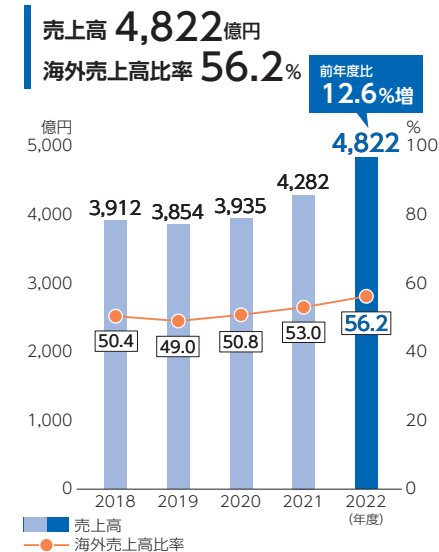
2023年3月、当社は2023-2025年度の3か年中期経営計画を公表しました。これまで当社は、お客様のニーズを元に製品を開発し、製品を中心的な価値としてお客様にお届けしてきましたが、デジタル技術の急速な進歩もあり、お客様のニーズは、製品そのものから製品を用いて取得できるデータへと変わってきています。

新中期経営計画では、お客様中心の課題解決型企業を目指し、従来の「製品」を軸とした事業体制から、ニーズをより良く理解するための「顧客」を軸とした事業体制へと変革していきます。

経営目標は、中期経営計画最終年度(2025年度)で売上高5,500億円、営業利益800億円、営業利益率14.5%、ROIC11.0%以上、ROE12.5%以上を掲げています。

「世界のパートナーと共に社会課題を解決するイノベティブカンパニー」を目指し、技術開発力と社会実装力の両輪を強化することで、お客様の必要なデータをお届けする「トータルソリューション提供企業」を目指します。詳細につきましては、5・6頁の特集1「中期経営計画(2023-2025年度)」をご覧ください。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援・ご高配を賜りますようお願い申し上げます。



# 世界のパートナーと共に 社会課題を解決するイノベティブカンパニーへ

～技術開発力と社会実装力の両輪強化により持続的成長を果たす～

新型コロナウイルス感染症との闘いを経て、世界では人の命と健康への意識が高まっています。また、サステナビリティへの関心が高まり、身近に気候変動の影響を多く感じられることから、地球の健康が非常に重要な社会課題と認識されています。

このような中、当社は、新たな中期経営計画をスタートしました。中期経営計画では、5つの事業戦略と7つの経営基盤強化を執行し、「世界のパートナーと共に社会課題を解決するイノベティブカンパニー」として、プラネタリーヘルス(人と地球の健康)を追求していきます。その中で、ヘルスケア、グリーン、マテリアル、インダストリーを社会価値創生領域と定め、技術開発力と社会実装力の両輪強化により持続的成長を果たしてまいります。

|                     |                                  |  |                   |                  |             |     |
|---------------------|----------------------------------|--|-------------------|------------------|-------------|-----|
| 中期経営計画(2023-2025年度) | コンセプト                            | 世界のパートナーと共に社会課題を解決するイノベティブカンパニーへ<br>～技術開発力と社会実装力の両輪強化により持続的成長を果たす～ |                   |                  |             |     |
|                     | 2025年度業績目標                       | 売上高  | 営業利益              | 営業利益率            | ROIC        | ROE |
| 5つの事業戦略             | 重点事業強化<br>[LC, MS, GC, 試験機, TMP] | メドテック事業の強化   | 海外事業の拡大<br>[北米強化] | リカーリングビジネスの強化、拡大 | 新事業・将来事業の創出 |     |
|                     | ガバナンスの強化                         |  |                   |                  |             |     |
| 7つの経営基盤強化           | 開発スピード強化                         | 国際標準化・規制対応力の強化   | グローバル製造の拡大        | DX推進             | 人財戦略：島津人の育成 |     |
|                     |                                  |  |                   | 財務戦略：攻めの財務へ      |             |     |



社 是：科学技術で社会に貢献する  
経営理念：「人と地球の健康」への願いを実現する  
島津グループサステナビリティ憲章

2023年度～2025年度  
中期経営計画



## 5つの事業戦略

### 事業戦略 01 重点事業強化

ヘルスケア領域では、主力の液体クロマトグラフ(LC)、質量分析システム(MS)を軸に、分析プロセス全体の自動化、AI活用による省力化、用途別ソフトウェア等の技術開発により基幹製品の競争力を高めるとともに、消耗品やソフトウェア等における企業提携、米国FDAや薬局方への対応と提案を通して社会実装力を強化します。カーボンニュートラル社会の実現に向けては、ガスクロマトグラフ(GC)、試験機などを軸に、海外でのアプリケーション開発とグローバルでの共有や、産学官連携での市場拡大などにより、バイオものづくり、水素の社会実装、新素材開発等の分野で、計測トータルソリューションを提供していきます。[Advanced i-Series] [LCMS-9050]



### 事業戦略 02 メドテック事業の強化

健康長寿に向け、健康管理、検査、診断、治療、予後管理において、成分分析や画像解析技術等を用いたソリューションを提供するメドテック事業を強化します。医用機器においてはAI画像解析による診断能力向上等を実現するイメージトランスフォーメーションを展開します。また、臨床MS、試薬、培地等の技術開発、グローバルでの薬機法対応体制強化、医療機関等と連携した臨床プラットフォームの実装と、骨粗しょう症、認知症、がん領域等へ新ソリューションの提供を進めます。

#### 臨床プラットフォーム



### 事業戦略 03 海外事業の拡大

北米、欧州、中国、アジア、インド等、各地域の市場特性に応じた顧客サポート体制の強化により、世界各地での事業拡大を図ります。特に、ヘルスケア領域拡大の最注力地域と定めた北米では、製薬担当の営業人員を増強し、営業力、サービス力を強化します。また、LC、MSの先進技術を有する顧客に密着した製品開発を実現する北米R&Dセンター、および製薬分野等のお客様と協働してメソッド開発を行う開発センターを米国東西に開設し、製品開発力や米国規制当局への対応力を高め、中長期の持続的成長を支える事業基盤を強化していきます。

### 事業戦略 04 リカーリングビジネスの強化、拡大

保守・メンテナンス・サービス契約の拡大と、消耗品ビジネスの拡大を両輪にリカーリングビジネスを強化します。前者では、DX、IoTを使ったリモートモニタリング機能や、ソフトウェアを定額で提供するサブスクリプションサービス等を開発し、顧客のメリットを訴求していきます。後者では、島津ダイアグノスティクスなど当社グループ会社と連携し、試薬、培地、カラムの開発力を強化し、加えて、パートナー戦略の展開とともに販売・生産体制の拡充により社会実装を進めていきます。



### 事業戦略 05 新事業・将来事業の創出

中期経営計画期間においては、臨床検査プラットフォーム、感性計測システム、高性能・高分解能MS技術、自律型実験システム、がん治療支援技術や銅加工技術等のオンリーワン、ナンバーワンの製品やシステムを開発し、トータルソリューションの提供を通して、新事業の創出を目指します。より長期的な視点では、サステナブルな社会の実現に向け、新材料開発を支援するインフォマティクス技術や量子技術、光技術を用いた新たなソリューション開発により、将来事業を創出し、社会課題解決による成長を実現していきます。

## 日水製薬を完全子会社化し、島津グループ一体で臨床事業を推進

### 臨床診断・微生物検査・細胞にフォーカス

当社はこれまで、「分析と医用の融合」を推進し、感染症、認知症、がんなどのメカニズムの解明と早期診断・早期治療に向けた事業の育成に取り組んできました。新中期経営計画では引き続きヘルスケア分野を重点領域とします。その中でも臨床事業については、2022年に株式公開買付け(TOB)により当社グループの完全子会社とした日水製薬株式会社と共に、今後更に加速させていきます。

### 本社の専門部署と島津ダイアグノスティクスが一体となって、シナジーを創出

2023年4月には、日水製薬株式会社の名称を島津ダイアグノスティクス株式会社(以下SDC)へ変更し、さらに同月、当社の分析計測部門に関連部門の人材を集約したダイアグノスティクス統括部を新設しました。これにより、ダイアグノスティクス統括部とSDCがひとつの事業体として、臨床事業を推進する体制が整いました。分析計測機器を主力とする当社と、臨床市場向け販路および試薬(様々な検査に機器とともに用いられる薬品)・培地(細胞や微生物の成長に用いられる物質)関連に強みを持つSDCが事業基盤を補完・強化しながらシナジーを創出し、臨床診断・微生物検査・細胞という3つの事業分野でトータルソリューションの提供を目指します。

### 3つの事業分野で新たな市場を開拓し、事業成長を加速

**臨床診断事業**では、SDCの技術を活かして、当社の液体クロマトグラフ質量分析計や遺伝子解析装置等の分析装置とセットで用いられる検査試薬キットを開発します。加えて、分析装置・試薬・消耗品をトータルに揃えた臨床検査システムをSDCの販路を活かして病院へ提案し、販売を進めます。

**微生物検査事業**においては、当社とSDCの製品・技術を組み合わせて臨床微生物検査装置を開発し、検査に必要な製品をフルラインナップで揃えて、市場への本格的な参入を果たします。

**細胞事業**では、当社の細胞検査装置と、SDCが持つ、様々な細胞培養に利用できる多彩な培地製品や受託検査サービスなどを活用することで、製薬企業の細胞培養研究から培地製造、再生医療等の製品申請データの取得に至るまで、ワンストップで対応いたします。

各事業分野でSDCと一体となって取り組むことで、臨床事業を強力に推進していきます。



(左)SDC小野社長、(右)当社山本社長



臨床診断

新型コロナウイルス  
検出試薬キット

全自動遺伝子解析装置  
[AutoAmp]

微生物検査

全自動迅速同定・感受性  
測定装置「ライサス® S4」

細胞

細胞培養用培地

## 新拠点「Shimadzu Tokyo Innovation Plaza」を開設 —世界最高水準の国際戦略拠点から新たな価値創出へ—

2023年1月、当社の主力事業である分析計測部門の新拠点「Shimadzu Tokyo Innovation Plaza」(以下Shimadzu TIP)を、殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」(川崎市殿町地区)に開設しました。Shimadzu TIPでは、最先端の「魅せる」ラボ空間を活用し、近隣の研究機関や国内外の顧客とつながることで、分析計測機器の新たな用途開発や新事業を創出するオープンイノベーションを促進します。



Shimadzu Tokyo Innovation Plaza

### 顧客との交流がもたらす、装置のアプリケーション開発

当社は近年、研究開発拠点を拡充しており、2019年には「ヘルスケアR&Dセンター」を、2022年には「Shimadzuみらい共創ラボ」を開設しました。前者がヘルスケア領域に特化した研究開発施設、後者が基礎技術を開発する研究所です。それに対して、Shimadzu TIPは、分析計測機器のアプリケーション(用途・手法)開発機能をメインに、当社製品の見学やデモ、操作トレーニングや分析相談など、技術サポートの機能も持っています。さらに、共同研究ラボや講演ホールを設け、立地や設備を活かした共同研究、イベント・学会の開催を通じて、最先端の研究者が集うネットワークの形成を支援します。これらの活動を通じて、私たちはお客様のニーズを収集し、新たな分析手法など応用技術の開発に活用するほか、得られた情報や成果を本社や他の研究拠点にフィードバックします。

Shimadzu TIPが立地するキングスカイフロントは、国家戦略特区や国際戦略総合特区に指定されており、健康・医療・福祉・環境の分野から約70もの機関が進出する世界最高水準のオープンイノベーション地区です。羽田空港から車で10分の好立地であることから国内外のお客様が立ち寄りやすく、お客様のニーズに即したアプリケーションの開発が期待されます。

Shimadzu TIPでは、すでに多くのお客様から立会分析などの利用を頂いているほか、学会の開催や近隣研究機関との技術交流なども活発に行われています。人と技術とアイデアが集まる「新たな知の交流空間」として、社会課題の解決に貢献します。



左から当社岡崎所長・山本社長・上田会長、川崎市の福田市長、(公財)実験動物中央研究所野村理事長



環境対応の分析装置が並ぶグリーンサイエンスラボ

Shimadzu TIPの  
詳細はこちら





**分析/新製品** 世界初 音声操作機能を搭載した試験機を発売

2023年1月、精密万能試験機「オートグラフAGX-V2シリーズ」を発売しました。  
精密万能試験機は、材料の強度や力を加えた際の変化を測定する強度試験に使用されます。近年、電気自動車やカーボンニュートラル関連の開発要望が強まったことで、新素材・新構造の部品や製品が増え、強度試験の需要は高まりつつあります。また、強度試験の普及とともに、操作性と安全性に優れ、かつ試験回数の増加に効率良く対応可能な製品が求められています。  
本製品は、従来機種の世界最高性能・機能を継承しつつ、試験機として世界で初めて音声で操作できる機能を搭載しました。オペレータが音声(日本語・英語・中国語)で指示すると、AI搭載の認識エンジンが命令を解釈し、試験機を動作させます。会話形式での操作のサポートにより正しい手順で安全に試験ができます。  
本製品の投入により、カーボンニュートラルに向けた水素社会の実現や、EV化などの新しいモノ作りの推進を下支えし、安全性の向上や社会課題の解決に貢献していきます。



精密万能試験機  
「オートグラフAGX-V2シリーズ」  
(左)大型カラー液晶タッチパネル搭載モデル  
(卓上型)  
(右)標準モデル(床置型)

**ヘルスケア** 血液検査による認知症の早期診断に向け、共同研究を開始

2022年11月、エーザイ株式会社、大分大学、臼杵市医師会と共に、大分県臼杵市で、日本初となる血液バイオマーカーで軽度認知障害(MCI)およびアルツハイマー病を診断する仕組みの構築に向けた共同研究を開始しました。

認知症の6割強を占めるアルツハイマー病は、発症の約20年前から脳にアミロイドベータが溜まり始めると言われていますが、アミロイドベータの測定に使用されるPETは検査費用が高額で、脳脊髄液を採取する従来型の検査は身体的負担が課題となっています。血液バイオマーカーによる診断は低コストで身体的負担が少ないため被検者の負担が抑えられ、普及につながる事が期待されています。

本研究では、認知機能の低下が疑われる100名の被験者の血液を採取し、当社の分析装置を用いた血液バイオマーカーの測定データの解析および評価を行い、バイオマーカーの有用性を実証し、アルツハイマー病の超早期発見に寄与する仕組みの構築を目指します。



記者会見  
左から臼杵市医師会の藤野理事、  
大分大学医学部の松原教授、  
当社馬瀬シニアエグゼクティブ(当時、  
専務)、エーザイ内藤執行役



アミロイドベータを血液数滴で測定する  
「血中アミロイドベータ測定システムAmyloid MS CL」

**食品** 「食の持続可能性」向上を目指し、シンガポールで「Shimadzu World Lab Network」を始動

2022年11月、アジア統括会社のShimadzu Asia Pacific Pte Ltd.は「食の持続可能性」をテーマに、「第3回 島津グローバルフードサミット」を開催し、「Shimadzu World Lab Network」を立ち上げました。このネットワークでは、タイ国立科学技術開発庁の評価機関NCTCや、シンガポールの国立工科大学 ナンヤン・ポリテクニクなど当社グループが協働している研究機関が、各機関の能力を融合することで得られるシナジーを活かしながら、「食の持続可能性」をもたらすイノベーションの創出を目指します。  
一方、国内でも、「食」に関するネットワークづくりに取り組んでおり、農業・食品産業技術総合研究機構と共同で「NARO島津テストングラボ」を当社「ヘルスケアR&Dセンター」に開設し、共同研究の成果の社会実装を目指して、食品・飲料メーカーの健康につながる新製品開発を支援しています。  
当社は最先端の分析計測技術と製品によって安全性や品質を確保し、食品分野での実りある協働と社会貢献をサポートしていきます。



第3回 島津グローバルフードサミット

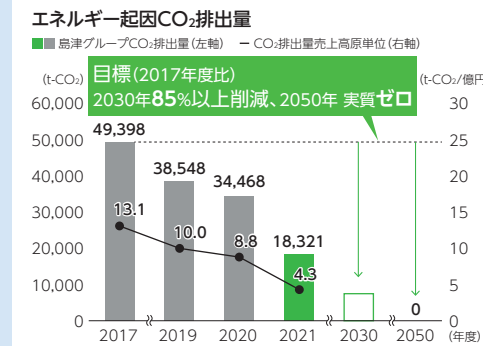


機能性食品の分析等で使用される  
高速液体クロマトグラフ質量分析計  
「LCM5-8060NX」

**環境** カーボンニュートラルの実現に貢献する国際評価を取得

2022年11月、国際的な環境団体SBTイニシアチブの「SBT (Science Based Targets) 認定」を更新しました。同年3月に、当社はグループの事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量を2030年度に85%以上(2017年度比)削減するなどの目標を掲げ、更新の手続きをしていました。今回、当社の新たな2030年度目標が、産業革命前と比較して気温上昇を1.5℃未満に抑える水準と整合した目標であると認定されたものです。

また、2022年12月、国際環境非営利団体CDPによる調査「CDP2022」の「気候変動」部門で「A- (リーダーシップレベル)」、「水セキュリティ」部門で「B (マネジメントレベル)」の評価を受けました。「気候変動」部門では、カーボンニュートラルに対する目標設定と達成に向けた企業努力が評価されたと考えています。一方で、「水セキュリティ」部門では、水リスクをはじめとした自然資本に対する活動レベルの向上を図っていきます。  
今後もグループ全体で脱炭素・循環型社会の構築に向け、環境保全と事業活動の調和を目指します。



連結貸借対照表

(単位: 億円)

| 科目            | 当期末<br>(2023年3月31日) | 前期末<br>(2022年3月31日) |
|---------------|---------------------|---------------------|
| <b>資産の部</b>   |                     |                     |
| 流動資産          | 4,315               | 3,944               |
| 固定資産          | 1,874               | 1,662               |
| 有形固定資産        | 1,130               | 1,044               |
| 無形固定資産        | 170                 | 112                 |
| 投資その他の資産      | 574                 | 506                 |
| 資産合計          | 6,189               | 5,605               |
| <b>負債の部</b>   |                     |                     |
| 流動負債          | 1,724               | 1,587               |
| 固定負債          | 230                 | 206                 |
| 負債合計          | 1,954               | 1,794               |
| <b>純資産の部</b>  |                     |                     |
| 1 株主資本        | 3,964               | 3,591               |
| 1 その他の包括利益累計額 | 271                 | 221                 |
| 純資産合計         | 4,235               | 3,812               |
| 1 負債純資産合計     | 6,189               | 5,605               |

連結損益計算書

(単位: 億円)

| 科目                | 当期<br>(2022年4月1日から<br>2023年3月31日まで) | 前期<br>(2021年4月1日から<br>2022年3月31日まで) |
|-------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 2 売上高             | 4,822                               | 4,282                               |
| 売上原価              | 2,813                               | 2,496                               |
| 売上総利益             | 2,010                               | 1,786                               |
| 販売費及び一般管理費        | 1,327                               | 1,148                               |
| 2 営業利益            | 682                                 | 638                                 |
| 営業外収益             | 36                                  | 37                                  |
| 営業外費用             | 10                                  | 19                                  |
| 2 経常利益            | 709                                 | 656                                 |
| 特別利益              | 11                                  | 11                                  |
| 特別損失              | 11                                  | 8                                   |
| 税金等調整前当期純利益       | 708                                 | 659                                 |
| 法人税、住民税及び事業税      | 215                                 | 194                                 |
| 法人税等調整額           | ▲27                                 | ▲8                                  |
| 当期純利益             | 520                                 | 473                                 |
| 2 親会社株主に帰属する当期純利益 | 520                                 | 473                                 |

POINT 1 自己資本比率の向上

利益剰余金の増加等により、自己資本比率は0.4ポイント向上し、68.4%となりました。

POINT 2 過去最高額を更新

売上高は前期に比べ12.6%増加し、過去最高の4,822億円となり、営業利益682億円、経常利益709億円、親会社株主に帰属する当期純利益520億円と全て過去最高額を更新しました。

配当のご案内 2022年度期末配当金 1株当たり32円

配当金は、2023年6月29日(木)以降お受け取り頂けます。

配当金のお支払いに関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777 (通話料無料) 土・日・祝日等を除く9時~17時

詳しくは当社Webサイトより

「決算短信/決算説明会資料」をご覧ください。

<https://www.shimadzu.co.jp/ir/library/finance.html>



取締役



代表取締役  
会長  
上田 輝久



代表取締役  
社長  
山本 靖則



取締役  
専務執行役員  
渡邊 明



取締役  
上席専務執行役員  
丸山 秀三



社外取締役  
和田 浩子



社外取締役  
花井 陳雄



社外取締役  
中西 義之



社外取締役  
濱田 奈巳

監査役



常任監査役  
藤井 浩之



常勤監査役  
小谷崎 真



社外監査役  
西本 強



社外監査役  
林 由佳

詳しくは当社Webサイトより

定時株主総会に関するご報告

2023年6月28日開催の当社第160期定時株主総会の決議の結果につきましては、インターネット上の当社Webサイトに掲載しております「第160期定時株主総会決議ご通知」をご高覧ください。

<https://www.shimadzu.co.jp/ir/library/shareholders.html>



■株式の状況

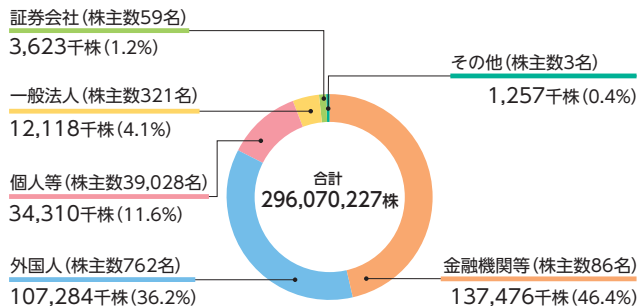
発行可能株式総数 ..... 800,000,000株  
 発行済株式の総数 ..... 296,070,227株  
 株主数 ..... 40,259名

■大株主 (上位10名)

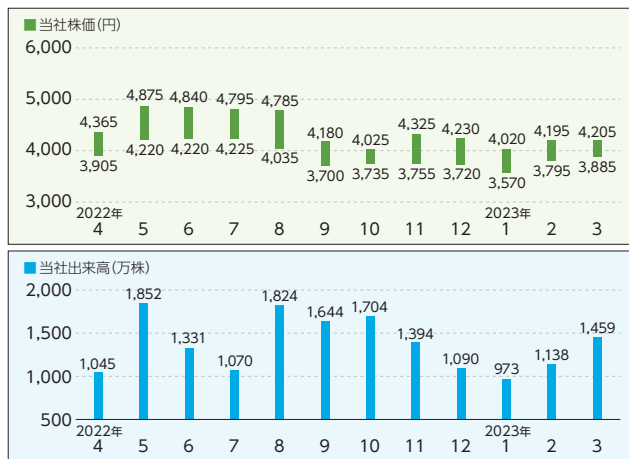
| 株主名  | 持株数<br>(千株) | 持株比率<br>(%) |
|--|-------------|-------------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)                    | 43,277      | 14.68       |
| 明治安田生命保険相互会社                               | 20,742      | 7.04        |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口)                         | 13,962      | 4.74        |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223 | 12,737      | 4.32        |
| 株式会社三菱UFJ銀行                                | 7,672       | 2.60        |
| 太陽生命保険株式会社                                 | 7,411       | 2.51        |
| 東京海上日動火災保険株式会社                             | 6,287       | 2.13        |
| 株式会社京都銀行                                   | 4,922       | 1.67        |
| 全国共済農業協同組合連合会                              | 4,384       | 1.49        |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社                              | 4,205       | 1.43        |

※持株比率は、自己株式(1,253,847株)を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況



■株価の推移 (東京証券取引所)



■会社概要

商号 株式会社島津製作所  
 Shimadzu Corporation  
 創業 明治8年(1875年)3月  
 設立 大正6年(1917年)9月  
 本社所在地 〒604-8511 京都市中京区西ノ京桑原町1番地  
 電話075-823-1111(代表)  
 資本金 26,648,899,574円  
 従業員数 (単体) 3,541名 (連結) 13,898名  
 連結子会社数 (国内) 23社 (海外) 55社

■主要な事業所

本社 京都市中京区西ノ京桑原町1番地  
 支社 東京/関西(大阪市)  
 支店 札幌/東北(仙台市)/つくば/北関東(さいたま市)/横浜/静岡/名古屋/京都/神戸/広島/四国(高松市)/九州(福岡市)  
 工場/事業所 三条(京都市)/紫野(京都市)/厚木/秦野/瀬田(大津市)/Shimadzu Logistics Center Kyoto(向日市)  
 研究所/研究施設 基盤技術研究所(京都府相楽郡精華町/京都市) 田中耕一記念質量分析研究所(京都市) ヘルスケアR&Dセンター(京都市) Shimadzuみらい共創ラボ(京都府相楽郡精華町) Shimadzu Tokyo Innovation Plaza(川崎市)

■Webサイト、統合報告書のご案内

■Webサイト

<https://www.shimadzu.co.jp>



■統合報告書

<https://www.shimadzu.co.jp/ir/library/annual.html>



国際的な環境イニシアティブ「RE100」に加盟

持続可能な社会の実現に貢献するため、2021年から「RE100」に加盟し、2050年までに事業活動で使用する電力を再生可能エネルギー100%とすることを宣言しました。



「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に選定



日本取引所グループ(JPX)と東京証券取引所、日本経済新聞社が、グローバルな投資基準に求められる諸条件を満たした企業を選定する目的で2014年から公表を開始した「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に7年連続で選定されています。

「健康経営銘柄」に選定  
 「健康経営優良法人(ホワイト500)」に認定



経済産業省と東京証券取引所が、社員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に「健康経営」を進めている企業を選定する「健康経営銘柄」に3年連続で選定されました。また、経済産業省が日本健康会議と共同で、優良な健康経営の施策を実施している大規模法人を認定する制度「健康経営優良法人(ホワイト500)」に、制度開始から7年連続で認定されています。

「新・ダイバーシティ経営企業 100選」に選定



経済産業省が多様な人材の能力を最大限引き出し、中長期的に企業価値向上を実現している企業を選定する「新・ダイバーシティ経営企業 100選」に2019年から選定されています。

環境大臣が「エコ・ファースト企業」に認定



環境分野において「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業として認められ、「エコ・ファースト企業」に2020年度から認定されています。



# 島津製作所 創業記念 資料館

## 株主様 無料入館券

本券1枚につき  
4名様まで  
無料で入館  
頂けます。

2024年6月末  
まで有効

キリトリ

# 島津製作所 創業記念資料館のご案内

当館は、創業100年を迎えたことを記念し、1975年に創業者である初代と二代目島津源蔵の遺徳を偲び開設されました。創業以来製造してきた理化学器械、産業機器やX線装置ならびに事業活動に関連する文献・資料などを展示しており、島津製作所の歩みとともに、日本の近代科学技術の発展過程をご覧頂けます。

- 休館日/水・土・日曜、祝日  
(詳細はWebサイトを確認)
- 入館時間/9:30~16:30(閉館17:00)
- 入館料/大人300円 中学生200円  
小学生以下 無料  
団体割引(20名以上20%引)

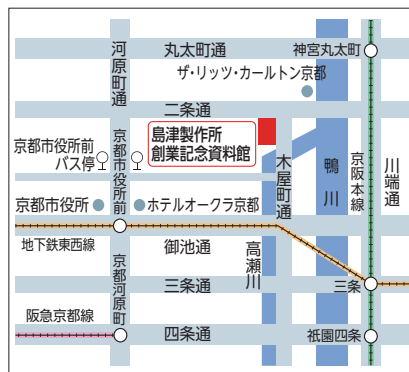
※当館には、駐車場がございません。

※事前予約制で開館しております。ご見学日の3日前までにお電話でご予約ください。



## 島津製作所 創業記念資料館 (登録有形文化財)

- 市バス「京都市役所前」下車徒歩3分
- 京阪本線「三条駅」下車徒歩7分
- 地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車2番出口徒歩3分  
(地下鉄烏丸線「京都駅」より「烏丸御池駅」乗換、地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車)
- JR「京都駅」よりタクシーで20分



〒604-0921

京都市中京区木屋町二条南

●TEL/075-255-0980

●FAX/075-255-0985

●<https://www.shimadzu.co.jp/memorial-museum/>



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月  
株主確定基準日 定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
(その他必要ある場合は、公告のうえ設定します。)

公告方法 電子公告とし、当社Webサイトに掲載します。  
<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html>  
ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、京都新聞及び日本経済新聞に掲載します。

単元株式数 100株  
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話(通話料無料) **0120-094-777**  
受付時間 9時~17時(土・日・祝日等を除く)

証券コード 7701  
上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場

## 「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられている株主の皆様へ

配当金は口座振込でも受け取ることができます。

配当金のお受け取りを、ご指定の銀行、または証券会社等の口座への振り込みにされますと、支払開始日に確実に入金されます。

### 口座振込を希望される場合

- ①口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお申し出ください。
- ②証券会社に口座がない株主様は、左記三菱UFJ信託銀行株式会社  
電話(通話料無料) **0120-094-777**  
にお申し出ください。

### IRメール配信サービスのご案内

当社の最新情報を電子メールで配信するサービスです。ぜひご登録ください。

●ご登録はこちらから  
<https://www.shimadzu.co.jp/ir/mail.html>



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。環境への配慮のため、責任ある森林からの原料を含む「FSC®認証紙」を使用し、植物油を用いた印刷をしています。

株式会社 島津製作所  
<https://www.shimadzu.co.jp>